

短歌 (投稿順)

フェアレディレッドにぶち込みフル加速白煙上げるパワードリフト 皆野 石原 達也
 八十路坂のぼりつめたるこの師走 大根切り干す庭あたたかし 三沢 眞下 杏子
 常の日と変わりもなく健やかに静かに新春迎える幸せ 皆野 根岸 詩子
 車椅子婆々三人に呼び止められあんタだんべー俳句出す人 皆野 戸塚喜久雄
 軒下に夫の愛でたる鉢の梅蕾膨らみ咲くを待ちおり 下田野 新井 節子
 遠き日の夭逝悼み義弟を花を買い来て偲ぶ命日 皆野 萩原 初恵
 待ちに待つ祝祭日を楽しみし昔の仕来たり想ふ年の瀬 三沢 新井 叶子
 振り向けば歳月の道は短くて暦の兔は直に消え去る 三沢 新井 民子
 軒下の玉葱の芽は十センチ続く生命や畑に埋めやる 国神 藤原マキ子
 老ふ毎に書きし賀状の減り寂し黄泉のうから等友等の恋し 下田野 浅見 豊子
 お年玉わたすと姉妹踊りだし先のトラブル落着となる 皆野 引間 万亀
 卯の年も跳ねることなく過ぎるまま師走の夜の満月送る 皆野 打木 昭廣
 脱炭素異常気象止めるため原発稼働地震に不安 上田野 四方田利男
 待ちわびた孫の笑顔にいやされて皆で囲む楽し食卓 皆野 村田ハツ代

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 18 句

恙無く慶寿祝がれし年惜しむ 三沢 眞下 杏子
 (評)「家族も安泰、自分も健康で長寿を祝ってもらうことが出来た良い一年だった。」と感謝を込めてしみじみと振り返る作者。年惜しむの季語に感慨が詰まっています。新しい年も健やかに優しい御家族と楽しい思い出を沢山作ってください。二句目、淑気は新春の季語。大地に満ちているめでたい気配なのですが、今年には地震や飛行機事故でかなしい年明けになってしまいました。被災地の人々の苦しみを思い、胸を痛めている作者。消された淑気が新たに、早い復興を祈ります。三句目、十二月九日は文豪夏目漱石の忌日。多くの著書の中で漱石の入門書のように多くの人が学生時代に愛読し、無鉄砲で痛快な行動に一喜一憂したつけ。そんな青春の日々を懐かしく思う作者です。
 禍事に焼かれし淑気闇に消ゆ 皆野 太幡琉美花
 ばね指を有め包丁始かな 皆野 引間 千鶴
 漱石忌坊つちゃん読みし日の遠く 高僧の今年の漢字「税」と書く 皆野 根岸 詩子
 下田野 新井 節子 地に足を確と歩まん年新た 皆野 根岸 詩子
 散歩道山稜著く冬茜 皆野 島 弘 帰宅時の黄落舗道歩をゆるめ 皆野 戸塚喜久雄
 手の皺を摩りゆうゆう湯かな 三沢 新井 民子 心晴れ無病息災鬼やらい 皆野 新井 ちか
 人生の苦楽は力冬花火 皆野 櫻井 早苗 皆野 新井 ちか